

Color Your World

共 創 学 部

現在を
未来を
共に創る

School of Interdisciplinary Science and Innovation (ISI)

2024 - 2025

九州大学



共創学部



知のリンクをたどれ

世界規模での感染症の流行や経済格差・貧困、失われつつある自然環境とエネルギー資源の奪い合い、グローバリズムと宗教・民族の対立。

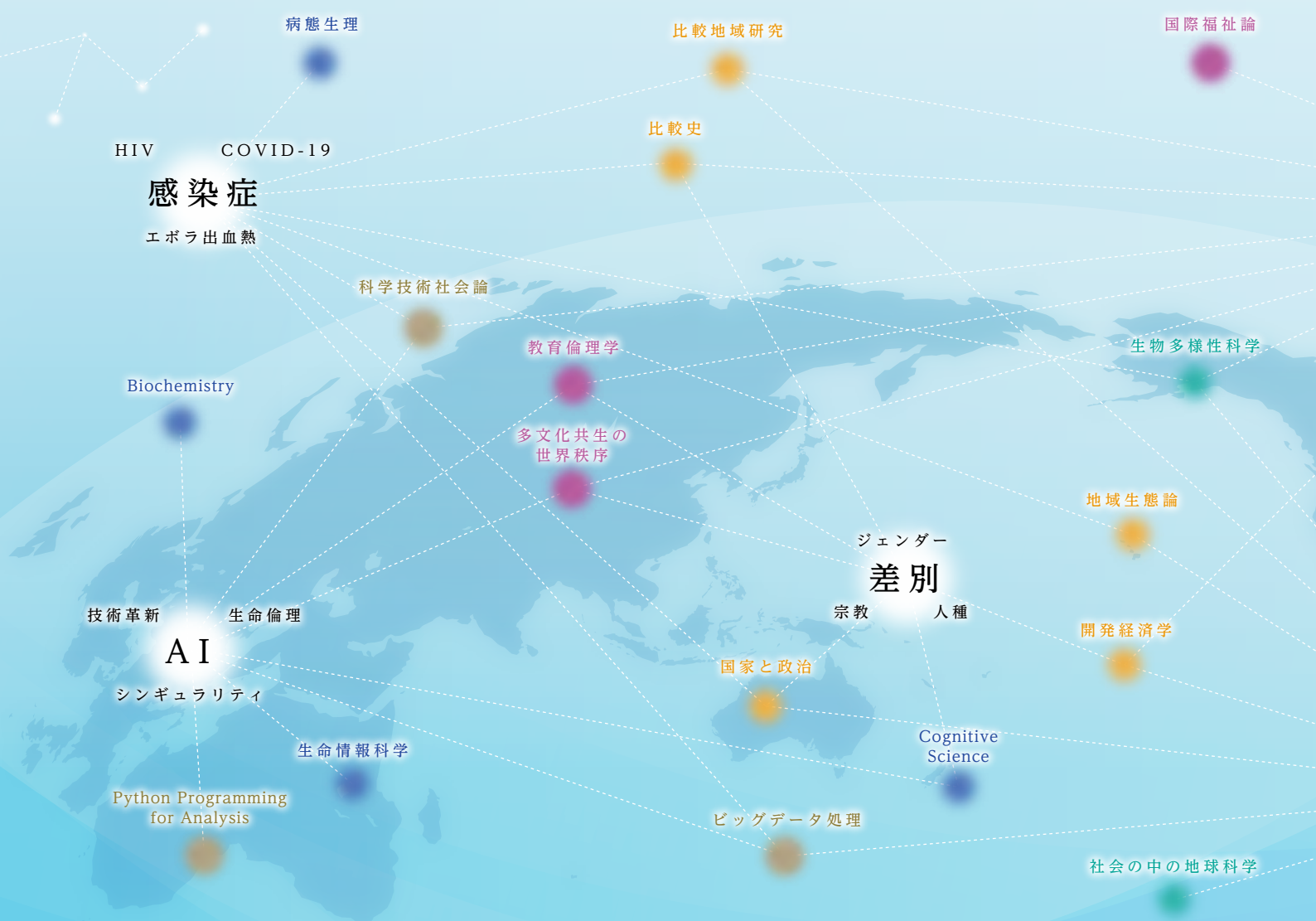
いま私たちが直面している問題の多くは、さまざまな要因が複雑に絡み合っ生じたもので一つの専門分野の視点だけで解決するのは困難です。

学問分野の枠を超えて知のリンクをたどり、いくつもの視点・視野・視座から問題の解決方法を探る。

そんな学び方、アクションの起こし方を経験しておくことが

今ある、あるいは未来に起こりうる課題へのアプローチには不可欠です。

多様性を柔軟に受け入れ、活かすスタンスや幅広い知識と高度なコミュニケーション能力を養うために「共創学部」は誕生しました。





message

学部長

鏑木 政彦教授 KABURAGI Masahiko

学位：博士（法学）

専門分野：政治思想史

（任期は令和6年9月末）

共創学部は2018年4月に新設された学部です。学部名からはどんなことを学ぶ学部なのか、なかなかイメージができないことと思います。

共創学部が目指しているのは、学生一人ひとりが自分の問題意識に基づいて、文理の壁を超えて領域の異なる複数の学問分野を学び、課題を設定してその解決に自ら取り組む、新しい大学教育の実現です。このような主体的な学びを通じて、絶え間なく変化する世界の課題に持続的に取り組むことのできる、強くしなやかな知性をもった人物を育てること、それが共創学部の目標です。

日本の大学の多くは学問領域ごとの学部に分かれ、さらに学部の中でも学科やコースが分かれ、同じ学科やコースの中でも隣の研究室で行われている研究内容はよくわからず、しばしば「蛸壺」と揶揄されています。学問の各々の専門領域は極め難いほどに広く深く、世界的な競争が激しいため、このように領域を定めて研究を進めることには十分な理由があります。たしかに「蛸壺」の中に宝は隠されているのです。

しかしながら、いま私たちが生きている現代は、人類が生み出した高度なテクノロジーや新しい社会システムによって、これまで隔てられていた領域が緊密に結び付けられたり、人間にしかできないと考えられていた仕事がマシーンによって置き換えられたり、新たな変化が起きている時代です。

このような時代に求められるのは、従来の専門領域に固執することなく、独自の問題意識に従ってそれをとびこえ、複数の領域が絡みあう新しいフィールドで、新たな知見や価値を発見していくことです。

共創学部は、このような新しいフィールドの課題を解決するために、複数の専門領域を結びつけて課題解決の知へとつなげる協働知創造、すなわち「共創」に習熟した人材の育成を目指しています。

そのために文理にまたがる多様な専門を有する51名の専任教員と29名の授業担当教員（2024年7月現在）を配置し、九州大学の教育リソースを活用しながら、多様な学問を結びつけて課題解決に取り組むことのできる教育環境を整えています。

共創学部は、個々の学生が既存の学部の枠を超えて自らのプロジェクトを遂行する学部です。皆さんもぜひ参加してみませんか。教職員一同、皆さんの挑戦を心よりお待ちしております。





九州大学について

九州大学の起源は、1903年に設置された京都帝国大学福岡医科大学に遡ります。総合大学としての起源は、1911年1月に九州帝国大学が創立、同時に工科大学が設置され、同年4月医科と工科が合併し、堅実な歩みが始まりました。現在では、学生約19,000人(留学生約2,500人を含む)、教職員約8,000人が在籍し、2018年4月にスタートした共創学部を加えた12学部、19学府(大学院、教育組織)、16研究院(大学院、研究組織)、4専門職大学院、高等研究院、基幹教育院、5研究所、国内最大級の大学病院や附属図書館等を擁する我が国を代表する基幹総合大学として発展しています。

本学の概要

- 1903 京都帝国大学 福岡医科大学
- 1911 九州帝国大学
- 1949 (新制)九州大学
- 2003 九州芸術工科大学と統合
- 2004 国立大学法人九州大学
- 2018 **共創学部 開設**

学部

共創学部	文学部	教育学部	法学部	経済学部
理学部	医学部	歯学部	薬学部	工学部
芸術工学部	農学部			

大学院

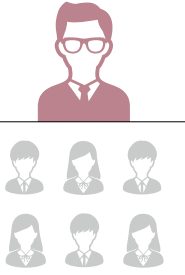
人文科学府	地球社会統合科学府	人間環境学府	法学府	法務学府
経済学府	理学府	数理学府	システム生命科学府	医学系学府
歯学府	薬学府	工学府	芸術工学府	システム情報科学府
総合理工学府	生物資源環境科学府	統合新領域学府	マス・フォア・イノベーション連携学府	



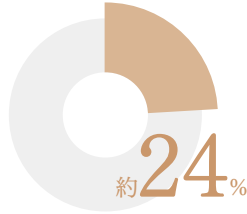
データでみる共創学部

学生5~6人に
チューター教員

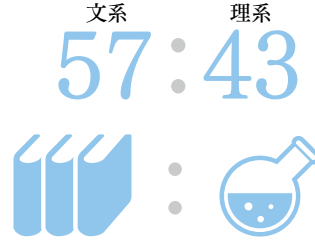
1名



外国人教員



高校時代の文理比



男女比

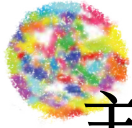
男 45 : 女 55

文理の枠を超えて

23部局

から多様な教員が集結

- 基幹教育院
- 人文科学研究院
- 比較社会文化研究院
- 人間環境学研究院
- 法学研究院
- 経済学研究院
- 言語文化研究院
- 理学研究院
- 医学研究院
- 薬学研究院
- 工学研究院
- 芸術工学研究院
- システム情報科学研究院
- 総合理工学研究院
- 農学研究院
- 応用力学研究所
- マス・フォア・インダストリ研究所
- 熱帯農学研究センター
- 科学技術イノベーション政策教育研究センター
- 韓国研究センター
- 留学生センター
- 学術研究・産学官連携本部
- エネルギー研究教育機構



主な進路・就職先

● 民間企業等

- AlphaSights
- Asobica
- BEMAC
- BIPROGY
- EYストラテジー・アンド・コンサルティン
- GO株式会社
- GSユアサ
- INCLUSIVE
- JFEエンジニアリング
- JR九州エージェンシー
- KBC九州朝日放送
- LINE
- MJC
- NTTデータ九州
- NTTドコモ
- PR TIMES
- PwCアドバイザリー
- Timingood
- TIS
- UCC上島珈琲
- Works Human Intelligence
- アイオ
- アイリスオーヤマ
- アレップ
- アクセンチュア
- アダストリア
- アビームコンサルティン
- アマゾンジャパン
- イオン九州
- イグニッション・ポイント
- いすゞ自動車
- ウィル
- エムティーアイ
- エン・ジャパン
- オービック
- オトラピスタ
- オリエンタルモーター
- カクシン
- カチタス
- カミチグループ
- キントー
- クイック
- グッドルーム
- クリークアンドリバー
- コムテック
- ジーユー
- ジェイウェイブ
- シナネンホールディングス
- スガツネ工業
- セブテーニホールディングス
- ドリームホールディングス
- ニトリ
- ニトリホールディングス
- パーソルプロセス&テクノロジー
- パナソニックコネク
- パナソニックハウジングソリューションズ
- フージャースコーポレーション
- ブランコ
- ブリーチ
- ブルームバーグ
- フルタイムシステム
- ベストコ
- ベネッセコーポレーション
- マクロジ
- マッキンゼーエリクソン
- マネジメントソリューションズ
- ミヤモトミュージックムービーズ
- ムーディーズ
- モンベル
- ゆめみ
- リッジラインズ
- リンクアンドモチベーション
- レイヤーズ・コンサルティン
- ワンキャリア
- 赤ちゃん本舗
- 一条工務店
- 応研
- 兼松
- 熊本朝日放送
- 久原本家グループ
- 九州電力
- 十八親和銀行
- 新出光

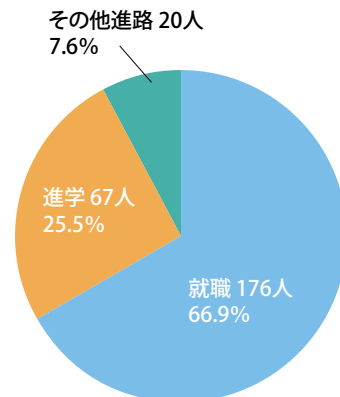
- 新学社
- 進研アド
- 住友化学
- 住友生命保険相互会社
- 第一生命保険
- 大和ライフネクスト
- 大成建設
- 中部電力
- 東京海上日動火災保険
- 東京ガスライフパルTAKEUCHI
- 東京ビッグサイト
- 日本IBM
- 日本航空
- 日本交通
- 日本生命保険相互会社
- 西日本鉄道
- 西日本電信電話
- 農林中央金庫
- 野村総合研究所
- 博報堂
- 博報堂プロダクツ
- 福岡銀行
- 福岡商工会議所
- 福岡地所
- 福岡中央銀行
- 富士通
- 富士通Japan
- 星野リゾート
- 三井住友海上火災保険
- 三井住友銀行
- 三井住友ファイナンス&リース
- 三菱地所
- 三菱UFJ銀行
- 宮崎銀行
- 明治安田生命保険相互会社
- 読売新聞東京本社
- 楽天グループ
- 楽天銀行
- 楽天証券
- 良品計画
- 渡辺パイプ

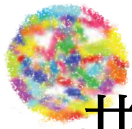
● 官公庁等

- 経済産業省
- 佐賀地方法務局
- 福岡市
- 沖縄県
- 山口県
- 宮崎県
- 海上自衛隊
- 国立研究開発法人科学技術振興機構
- 国立大学法人九州大学
- 独立行政法人労働者健康安全機構
- 出入国在留管理庁

● 進学等

- 九州大学大学院
- 人文科学府
- 地球社会統合科学府
- 人間環境学府
- 経済学府
- システム生命科学府
- 芸術工学府
- システム情報科学府
- 生物資源環境科学府
- 統合新領域学府
- 総合理工学府
- 北海道大学大学院
- 東京大学大学院
- 東京工業大学大学院
- 京都大学大学院
- Australian National University
- Leipzig University
- Lund University
- 測上医療福祉専門学校





共創学部 of 教育

九州大学が全ての学生に求める「能動的学習能力」を礎にして、「共創」のために必要な態度・能力となる「創造的構想力」、「国際コミュニケーション力」、「課題検討力」、「協働実践力」を養成します。これらの態度・能力の修得を通して「共創的課題解決力」の獲得を目指します。

常に課題を意識しながら能動的に学ぶことで、これからの社会で活躍するために必要な態度・指向性・知識・技能をもつ人間へと成長していくことができます。

創造的構想力
ありうべき未来を想像し、新しい社会的価値やイノベーション創出を通じてそこに至る道筋を構想できる。

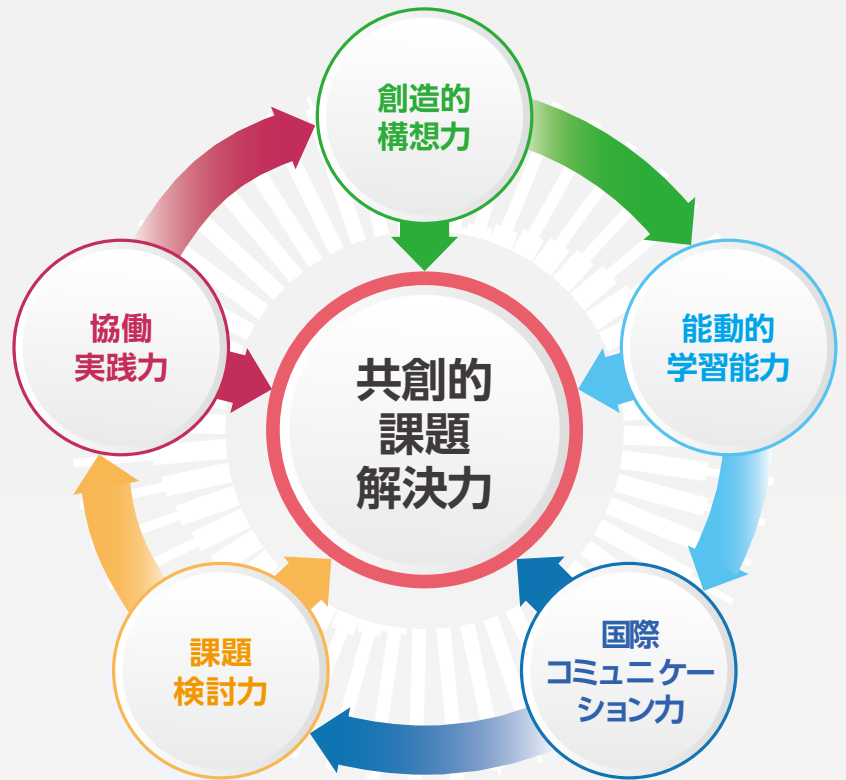
能動的学習能力
課題の検討と解決に必要となる知識や能力を主体的に探究することができる。

国際コミュニケーション力
背景の異なる様々な人々と、言語や専門の垣根を超えて協力し、理解し合うことができる。

課題検討力
既存の学知を活用し、課題の根源的原因やその解決方法を検討することができる。

協働実践力
背景の異なる様々な人々との議論や協働を通じて、実現可能な課題の解決方策を立案することができる。

共創的課題解決力
「国際コミュニケーション力」、「能動的学習能力」、「課題検討力」、「創造的構想力」、「協働実践力」の5つの力を総合して、課題の解決に取り組むことができる。



育成する人材像

For Global Life

「国際的・地球的課題に対する解決策をコーディネートして、世界に効果的に情報発信できる実務家」

For Changing Society

「国際社会の課題を解決するために、新しい社会の仕組みや価値の創出をデザインする専門家」

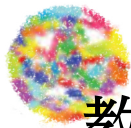
For Future Science

「文理を超えた学際的知見を修得し、国内外大学院に進学する、諸科学の境界・学際的領域の研究者」

学位

学術

(Bachelor of Arts and Sciences)



教育のポイント

1 徹底した語学教育

習熟レベル・能力別のクラスによる授業により、高い英語運用能力を身につけるほか、現代の課題を認識し、常に最新の情報をグローバルな視野で入手する姿勢を養います。また、学術英語の語彙や表現、自らの意見を述べる力など、外国語による合意形成プロセスも学びます。留学生に対して行う日本語教育もレベル別・技能別のクラスで行います。



2 課題解決型のカリキュラム

複数の学問分野の知識や技能を組み合わせることで問題の解決方法を考えるため、人文科学、社会科学、自然科学という既存の学問分野を横断・融合する内容のさまざまな授業を用意し、学生自身が設定した課題の解決に必要な複数の専門分野の高度な知識や技能、考え方を修得します。



3 実践的な協働学習

チーム型学習(Team-Based Learning)による「共創基礎プロジェクト」、「共創プロジェクト」を必修化することで、他者と協働して課題の解決を行う際の手法や技法、知識の活かし方、他者との意識の組み合わせ方や合意形成など、実際のプロセスを通して身につけます。



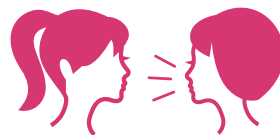
4 海外大学への留学等

海外大学への留学等を義務付け、すべての学生が異なる文化の中で学び、活動する経験を積むことで、国際理解や知識の拡大、言語能力とコミュニケーション能力の向上を図ります。



5 留学生とのクラス・シェア

日本人学生と外国人留学生が共に学ぶ授業スタイルを積極的に取り入れることで、日常的に日本人学生と外国人留学生の交流が行われる環境をつくれます。互いに助け合い、コミュニケーションを取りやすい環境の中で、双方が国際的な感覚を養うことができます。



6 レクチャーシリーズ

国内外から研究者だけではなく、現場の実務に携わってきた実務家や行政官、クリエイターなどを講師として招き、その経験をお話いただくことで、学生の視野を広げることを目的としています。各分野の第一線で活躍している方々より、現在、この世界で実際のところ何が起きているのか、それに人々がどのように対処しようとしているのかを、学問的ないし実践的な視点から解説していただきます。





カリキュラム

1年次

2年次

視野を広げ、課題に取り組む土台をつくる：課題の分析・検討に必要な様々な学知と技能を学び、協働や経験を通じてもの

高年次基幹教育科目

協働科目

知識や技能、考え方、背景の異なる様々な人々と協働して、課題を検討、
・共創基礎プロジェクト ・共創プロジェクト

共創基礎演習

アプローチ科目で学んだ学知や技能を、少人数での

アプローチ科目

我々が直面している課題を考えるうえで必要不可欠な学問的身に付けます。

人文・社会分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「文化的記憶入門」
- ・思想・倫理・哲学B「文化的記憶探究」
- ・思想・倫理・哲学C「社会哲学論」
- ・文学A「東アジアの文学と文化」
- ・文学B「比較文学比較文化入門」
- ・言語・コミュニケーション論A「言語研究概論」
- ・言語・コミュニケーション論B「コミュニケーションの語用論」
- ・歴史学A「近代歴史基礎論」
- ・考古学A「公共考古学基礎論」
- ・考古学B「社会集団論」
- ・考古学C「先史社会研究の理論と方法」
- ・人類学A「人類学的インタビュー方法」
- ・政治学A「政治学基礎論」
- ・政治学B「規範的政治理論」
- ・国際関係論A「国際政治」
- ・国際関係論B「中国外交論」
- ・経済学A「経済分析入門」
- ・経済学B「インド・南アジアの経済発展と開発」
- ・経済学C「環境経済・政策学」
- ・経済学D「Critical thinking through behavioral economics」
- ・経済学E「ミクロ経済学1」
- ・経済学F「ミクロ経済学2」
- ・地域研究A「中東政治」
- ・地域研究B「文化人類学的フィールドワーク論」

自然科学分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「生命倫理科
- ・地域研究A「地球環境実習」
- ・数学A「統計入門」
- ・工学A「自然災害とレジリエンシ
- ・工学B「自然災害とレジリエンシ
- ・工学C「物理現象と数学的表現」
- ・生物学A「昆虫学基礎論」
- ・生物学B「進化生物学」
- ・生物学C「分子生物学」
- ・生物学D「遺伝子実験と解析技
- ・生物学E「遺伝学と進化」
- ・生物学F「遺伝子とバイオダイバ
- ・生物学G「分子生物学と細胞生
- ・生物学H「生化学・内分泌学およ
- ・物理学A「自然科学の基礎」
- ・物理学B「物理学実験入門1」
- ・物理学C「物理学実験入門2」
- ・地球科学A「地球の環境形成」
- ・地球科学B「フィールドワーク基
- ・地球科学C「地球物質の科学1」
- ・情報学A「脳と情報」

学際分野(系)

- ・思想・倫理・哲学A「科学哲学」
- ・思想・倫理・哲学B「科学思想史」
- ・言語・コミュニケーション論A「学際研究入門」
- ・言語・コミュニケーション論B「ファシリテーション入門」
- ・考古学A「考古学研究方法論1」
- ・考古学B「考古学研究方法論2」
- ・地理学A「東アジアの経済地理学」
- ・地理学B「自然環境地理学」
- ・地理学C「人文環境地理学」
- ・地理学D「環境地理学演習」
- ・地域研究A「地域研究基礎論」
- ・数学A「分類のための数理」
- ・数学B「帰帰のための数理」

- ・工学A「水文学」
- ・情報学A「データアナリティクス1」
- ・情報学B「データアナリティクス2」
- ・情報学C「ビッグデータ処理」
- ・情報学D「質的研究法」
- ・情報学E「Python Programing in
- ・情報学F「Python Programing for
- ・情報学G「実データ解析技法」
- ・科学技術論A「科学技術社会論」
- ・デザイン学A「福祉とコミュニケーション
- ・デザイン学B「デザインとイノベーション
- ・生態学A「生物多様性基礎論」

基幹教育

九州大学で学ぶ、全ての学部学生が履修します。「ものの見方・考え方・学び方」を学習し、深い専門性や豊かな教養へとつながる知識、技能の基礎を身に付けます。

- ・基幹教育セミナー
- ・課題協学科目
- ・言語文化科目
- ・文系ディシプリン科目
- ・理系ディシプリン科目
- ・サイバーセキュリティ科目
- ・健康・スポーツ科目
- ・総合科目

共創基礎科目

共創学部での学修の土台となるものの考え方や見方、研究手法、技能などを学びます。

- ・学術研究基礎
- ・課題とイノベーション
- ・共創のための数学
- ・システム科学基礎
- ・データの収集・分析
- ・世界の様々な哲学
- ・世界を理解するための歴史的視座

基幹教育科目：英語インテンシブコース

英語の「読む・書く・聞く・話す」の4技能を徹底的に向上させ、英語が「使える」能力を身に付けます。

- ・インテンシブ英語 ・学術英語

経験科目

留学やインターンシップを通じて、自分が生まれ育った街や国、地域を超えて、世界中の様々な人々と交流し、自分とは異なる考え方や見方を学び、
・異文化対応1 ・異文化対応2 ・海外活動A ・海外活動B ・グローバル・オンラインA ・グローバル・オンラインB

レクチャーシリーズ

実際の課題解決の現場ではどのような取り組みがおこなわれ、どのような困難に直面し、いかにしてその困難を克服しようとしている

必要に応じて他学部などの科目を履修

3年次

4年次

の考え方や視野を広げる

課題に取り組む上で必要となる能力を磨く:実際に課題の分析・検討をおこなうことを通じて、将来的な課題の解決に必要な学知や技能、視点、態度を修得する

将来的な解決への道筋を考える思考法や態度、スキルを身に付けます。

演習形式で深めることを目的とします。

共創発展演習

指導教員から、ディグリープロジェクトの遂行に必要な方法論や技能、モノの見方などを、定期的に指導を受けることを通じて修得します。

方法論や技能を

課題科目 アプローチ科目で学んだ学問的方法論や知識、技能などを活用して、実際の課題を考え、その将来的な解決に至る道筋を探ることを学びます。

人間・生命領域

- ・システム神経科学
- ・栄養生理学
- ・バイオエンジニアリング:社会との関連性
- ・健康の科学
- ・Basic Pharmaceutical Science
- ・Advanced Pharmaceutical Science
- ・遺伝学と発生生物学

地球・環境領域

- ・生物多様性科学
- ・自然環境地理学応用演習
- ・保全遺伝学
- ・地球について考える
- ・社会の中の地球科学
- ・人文環境地理学応用演習1
- ・人文環境地理学応用演習2
- ・昆虫学演習
- ・環境都市政策
- ・環境保全・再生
- ・流域環境学
- ・大気海洋科学
- ・環境・エネルギー学
- ・地球の変動
- ・地球物質の科学2
- ・地球科学実習

国家と地域領域

- ・政策評価論
- ・ロシア経済論
- ・比較史
- ・越境史
- ・国家と政治
- ・東アジアのジェンダー史
- ・現代中国論
- ・計量中東政治
- ・日本経済史
- ・地域生態論1
- ・地域生態論2
- ・物質文化研究3
- ・電気エネルギーの供給方法と問題点

人と社会領域

- ・多文化共生と LOHAS
- ・国際福祉論
- ・臨床教育学
- ・観光と文化
- ・国際関係理論
- ・グローバル・ガバナンス
- ・言語データ分析
- ・コミュニケーションと認知
- ・Globalized English
- ・物質文化研究1
- ・物質文化研究2
- ・自己・他者の理解

領域横断

- ・コミュニティと社会開発
- ・共創プログラミング
- ・地域史
- ・比較地域研究
- ・哲学から課題に取り組む
- ・規範的政治理論演習
- ・宗教研究
- ・社会水文学
- ・地盤防災とサステナビリティ
- ・デザイン思考による課題解決
- ・脳科学と社会問題
- ・デザイン思考プロセス演習
- ・デザイン思考エンジニアリング演習
- ・デザイン思考コミュニケーション演習
- ・環境ガバナンス
- ・現代自然科学

ディグリープロジェクト

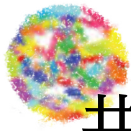
(卒業研究)

学生一人一人が将来的な解決を目指す課題を選定し、そのために必要となる方法論や技能を駆使して、課題の根源的な原因の探求や、将来の解決に不可欠な手法やモノの見方などの模索に取り組みます。

- ・ディグリープロジェクト1
- ・ディグリープロジェクト2
- ・ディグリープロジェクト3

違いを超えて協力する姿勢を身に付けます。

のかなどを学ぶことを目的に、産官学、様々な分野から講師を招き、講演やワークショップ形式で開講します。



共創学部 of 英語教育

共創学部には英語を学ぶ「シカケ」がたくさん用意されています。
確かな語学力を身につけ、世界へ羽ばたくためのプログラムがここにはあります。

シカケ
1

英語を集中的に学ぶ 英語インテンシブコース

1年次では3つの科目からなる英語インテンシブコースで時事英語・学術英語を集中的に学びます。また、九州大学のSALC (Self-Access Learning Center)では留学生との英会話セッションや英語での勉強会などが開催されており、授業外でも、英語を使う機会が確保されています。

シカケ
2

全員必須の留学

共創学部では留学生を除く全員に留学が義務付けられ、1ヶ月程度の短期留学から1年間の交換留学まで様々なプログラムが用意されています。自分に合ったプログラムを見つけて、世界へ飛び出しましょう。

シカケ
3

英語で学ぶ専門科目

共創学部では様々な分野の授業が英語を用いて行われます。英語で専門科目を学ぶことで留学への準備となり、留学後には身につけた力を存分に発揮する場となります。

シカケ
4

英語で研究の成果を発表

英語で行う卒業研究発表会で自分の成果をきちんと伝えられるよう、英語そのものだけでなく英語の発表技法や論理展開などもしっかり学びます。また、英語での研究発表は国際的な学会会議等での発表の準備にもなります。

3つのテーマについて学ぶ

Global Issues

世界の時事問題について学びます。英語のニュースやエッセイなどを読んで要約や自分の考えを述べる訓練をし、同時に世界の課題を認識・発見する力を養います。

Japanese Issues

日本の時事問題について、留学生とともに英語で学び、日本を客観的に観察し、議論する力を身につけます。また、ディスカッションやディベートなどを通して、意見を共有し、高め合うプロセスを学びます。

Academic Issues

学術英語の基礎を学び、論理的な文章の作成方法、論文の書き方、効果的な発表の方法などを身につけます。また、学術的な発表や英文を理解する力を涵養します。

英語開講科目例

- Global Social Welfare
- Comparative Area Studies
- Introduction to Cultural Memory Studies
- Bioethics
- Critical thinking through behavioral economics
- Comparative History
- Fundamentals of Modern History
- Energy Resources Engineering
- Molecular Biology
- Basic Pharmaceutical Science

ディグリープロジェクト (卒業研究)

学生自らが課題を設定し、これまでに学んだ知を組み合わせて、課題解決のための新しい知や価値の創出に取り組みます。課題の解決策を異なる2つの学問分野からアプローチし、課題の解決方法等を卒業論文等にまとめ、英語で発表します。



留学情報

グローバル社会において多様な分野で活躍する人材を育成するため、共創学部では海外大学への留学等を義務付けています(語学研修のみの留学は認められません)。全ての学生が異なる文化の中で学び活動する経験を積むことで、広く異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在を認識し、国際理解・知識の拡大に加え、コミュニケーション力と行動力の向上を図ります。

なお、外国人留学生は、本学で学ぶことですので留学を経験していることなどから、原則として日本国内でのインターンシップ等を行います。

交換留学

海外の大学機関と締結した学生交流協定等に基づき、交換留学生として1年以内の期間で留学を行い、各々が設定した課題に関連する専門分野の授業等を履修し、単位の取得を目的とする学修活動。

- 実施可能年次: 2年次～4年次
- 実施期間: 1学期(受入大学の学期)から1年間

海外インターンシップ 海外ボランティア 海外フィールド調査等

海外でのインターンシップやボランティア活動への参加、海外の大学機関における各々が設定した課題に関連する専門分野の技術修練・習得、海外でのフィールド調査などを目的とする活動。

- 実施可能年次: 1年次～4年次
- 実施期間: 8日以上(移動日を除く)1年未満、かつ、30時間以上(演習科目の授業分)の学習時間

短期留学・研修

一定の語学力の保持などを条件に学内募集・選考を行う短期留学・研修プログラム、または参加を許可する海外の教育機関等が実施する短期研修プログラムへの参加を通じ、各々が設定した課題に関連する専門分野の知識・技能の修得や、異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在の認識と、国際理解・知識の拡大を目的とする学修活動。

- 実施可能年次: 1年次～4年次
- 実施期間: 概ね1ヶ月以内(プログラムによる)

海外留学等用の経済支援

共創学部では、共創学部生対象の「海外留学等に係る経済支援」制度を設けています。

単位認定に必要な留学等を行う際、在学期間中に一回を限度として、留学等に係る費用の一部を補助する目的で留学準備金及び奨学金が給付されます。

※受給するためには、成績等の条件があります。

- 留学準備金: 一律15万円(渡航費用やビザ取得費用、危機管理及び保険のための費用などを補助)
 - 奨学金: 毎月2.5万又は4万円(奨学金の金額は、留学先の地域、都市等により異なります) ※他の奨学金と併給可能です。
- ※2024.4現在。上記の制度は、年度によって変更の可能性があります。

大学間・部局間交換留学による 留学先大学数

大学間
協定

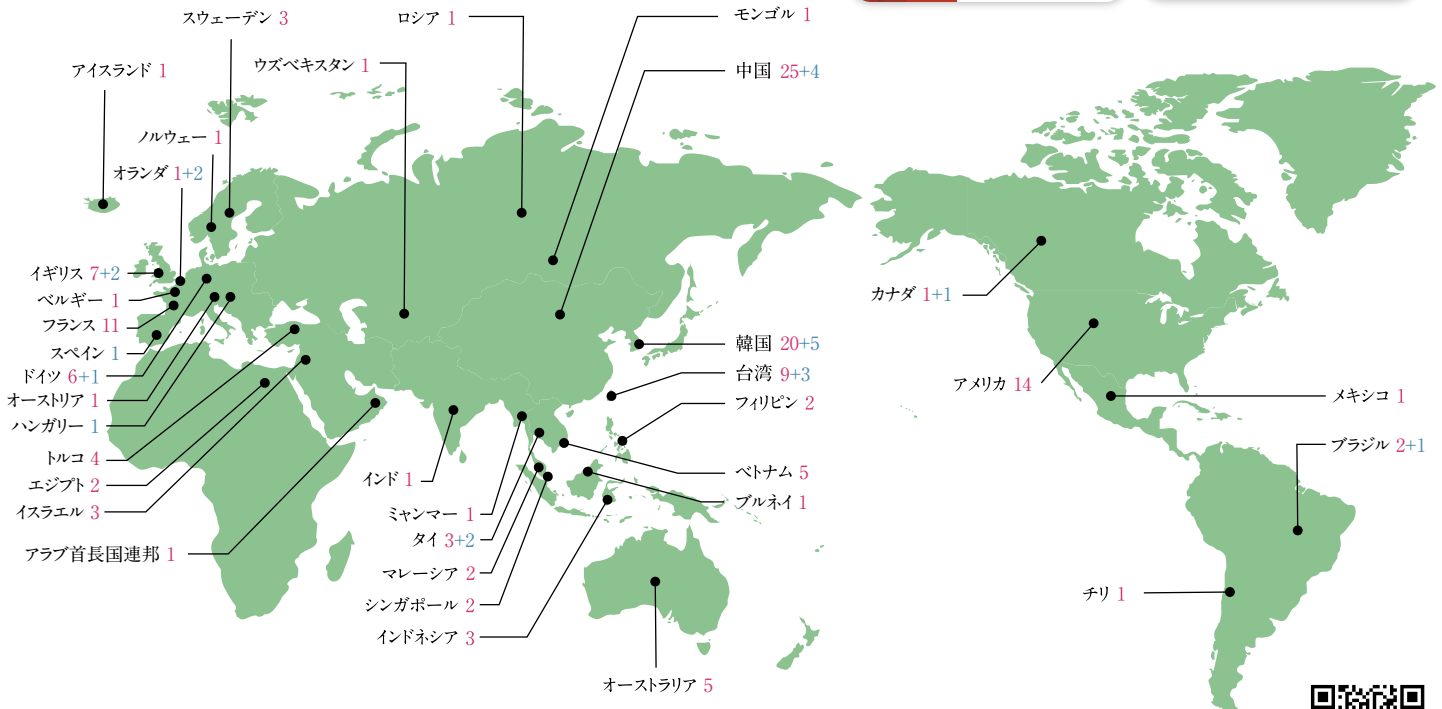
143大学

(2024年5月現在)

共創学部
部局間
協定

23大学

(2024年5月現在)



※赤色で示す数字は、大学間協定数
※青色で示す数字は、共創学部部局間協定数

※九州大学の詳しい留学情報は以下URLをご覧ください。
<https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study>





留学体験記



小さな成功体験の積み重ねから大きな自信へ

オランダ・トゥウェンテ大学

共創学部3年 梅崎 日和(UMEZAKI Hiyori)

1年生の夏休み。コロナにより自宅待機を強いられたことがきっかけで、留学について考え始めました。ヨーロッパに行ってみたくという漠然とした気持ちから留学先探しは始まりましたが、色々と調べていく中で惹かれたのは、非英語圏の中で世界の英語力をもつと言われるオランダ。私は以前から教育に興味をもっており、教材開発について学習できる学部があると知ったのが、留学先の決め手となりました。

この半年間、机上の空論では終わらない学習を数多く経験できたことは大きな財産です。学習と指導の心理学という授業では、11～12歳の生徒を対象とした教材開発を行いました。私たちのグループのアプリが最優秀賞に選ばれたときの喜びは忘れられません。メンバーには助けられてばかりでしたが、最後には戦友のような存在に変わっていました。

授業外の活動も充実していました。大学のバレーボール部では毎週の練習と月に2回の地元クラブチームとの練習試合に参加しまし

た。スポーツという非言語コミュニケーションを通して、授業の仲間とは別の絆が生まれたように感じています。

私は留学前、英語で話すときに間違いを恐れるあまり、頭の中で文を作ってから話す癖がありました。様々な国の留学生達と交流を深めていく中で、文法のミスや不自然な単語のチョイスは誰にでもあると気づきました。会話が噛み合わないときも私が言ったことを汲み取ろうとする皆に助けられました。お互いに笑い合えたのも、ノンネイティブ同士の会話だったからこそだと思います。今では英語を話すことを純粋に楽しめるようになり、九大での授業や部活で顔を合わせる留学生との会話が毎日の楽しみです。

オランダのチューリップを見ずして帰国したことが唯一の心残りですが、留学先で小さな成功体験を積み重ねてきたこれまでが、帰国した今の私の原動力になっていると思っています。気持ちはスーパーマリオの無敵スターのように、前に進んでいきます。



対話を通し築く信頼関係

JICA海外事務所インターンシップ・プログラム(ドミニカ)

共創学部3年 田原 和佳(TABARA Nodoka)

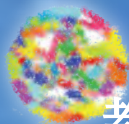
私は2年次の春休みに1か月半、JICAドミニカ共和国事務所インターンシップに参加しました。以前から国際協力に興味があり、その実現に向けて、自分の中でよりビジョンを明確にしたいという思いから参加を決めました。私が担当した主な業務は、日系社会の調査です。現地暮らし日本人移住者の皆さんやその子孫にインタビューをおこない、それに関する記事を作成しました。

実はドミニカ共和国には、1956年から日本人が「国策」として移住したという歴史があります。当時「カリブ海の楽園」と謳われたドミニカ共和国で広大な土地を手に入れ農作業ができるという政府の案内に、1300人もの国民が夢を抱き渡航しました。しかし移住者が現地で目にしたのは、塩が吹き出し石が転がる荒れ果てた土地でした。

初めは移住史を読んだり、過去のインタビューデータを聞いたり、歴史を学ぶことから始めました。その後インタビューで実際に話を聞く中で、移住者の皆さんの力強さや、どんな環境でも耐え抜く忍耐力に感銘を受けました。また、活動を通して、自分の傾聴力や対話

力が磨かれたと感じます。今抱えている課題をただ聞くのではなく、日々の何気ない会話の節々に見られる後悔や切望の言葉に目を向けるようになりました。そして、出会ったばかりとは思えないくらい、移住者の皆さんと深く心でつながり、信頼関係を築くことができたと感じました。

この留学を通して、どんなプロジェクトを行う上でも、人と人とのつながりや十分なコミュニケーションが非常に重要だと学びました。そして何より、このインターンシップでの様々な方々との出会いが、私にとって大きな財産となりました。JICA職員の皆さんや、移住者の皆さん、そのお子さんやお孫さんが、突然来た私を家族のように本当に温かく迎え入れてくださり、人の持つ温もりに何度も心を揺さぶられました。そのような出会いの中で、多様な人生を知り、後悔のない人生を歩むために進んでいく勇気をもらえました。地球の反対側で、毎日無我夢中で活動した経験は、私にとって大きな自信となっています。



教員インタビュー

Q 先生にとっての「共創」とは？

A 物事を様々な角度から考えることです。関連する分野を学ぶこと、読書などを通じて知識、視野を広げておくこと、共に仕事をするなどが重要だと思います。その上で、これまでとは違うアイデアやアプローチを思いついたり、ストーリーが描けるようになったりすることが「共創」ではないかと考えます。

Q 学生がこの学部だからできることは？

A 既存の学部と比べて、取り組みたい課題や方法などを選択する自由度が高いことと、試行錯誤が許されていることでしょうか。

Q 共創学部はどのような人におすすめですか？

A 他人に何かしてもらおうを待つのではなく、他人と同じことをするのが嫌で、自分から主体的に物事に取り組もうとする学生さんにお勧めです。

Q 共創学部を目指す学生にメッセージを！

A この学部は自由度が高い一方で、自分がしっかりしていないとどうにもならなくなる危険性をはらんでいる学部でもあります。大学入試がゴールではなく、共創学部合格してからがスタートだという意識で、学部生活を自分の人生の重要なステップとして過ごしていく、頭を使うことに疲れ果てて寝るという毎日を繰り返すことをいとわない人にぜひ、来てほしいです。

Q What do you like about ISI?

A I like the interactive nature of our school. This allows me to think much more concretely and practically about how to generate good solutions for society through studying decision science.

Q What do you think about ISI and how would you describe it?

A I see “interdisciplinary” as a form of innovation across disciplines – making new tools, new systems, and new values by combining different perspectives from the sciences and humanities. For instance, in my own research, by focusing on the mechanisms of brain and mind, we can try to improve decision making in many different aspects of society.

Q For whom would you recommend ISI?

A Our school is ideal for students who have wide-ranging interests, an open mind, and a willingness to try new things. It is also the best place for students who have a unique vision that goes beyond the usual boundaries of academic disciplines.

「共創」するのは学生だけではない

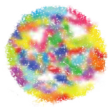
鬼丸 武士 教授

LAUWEREYNS Johan 教授

Q What can the students do after they graduate?

A Roughly speaking, I see three routes for our students after graduating.

- 1) Become a researcher in an innovative, interdisciplinary research field.
- 2) Become an innovative policymaker in business or government, either local or global.
- 3) Start your own venture or independent enterprise as a social innovator.



学生インタビュー Student Interview



共創学部3年 **福寺 航大**さん(2022年4月入学)
岡山県立津山高等学校卒(岡山)

Q1 中 高生の頃、社会のなかの理不尽や不合理な対立が得意ではなく、利他や良心を規範とするコミュニティが実現できないかと模索していました。この達成のため、①抽象的な概念を定量的に測り根拠として提示可能なデータを得ること、②現実世界に近いところで研究を実施し社会実装をもっていくことを同時に探究できる共創学部を目指しました。また、幼い頃から海外との交流や国際協力などに憧れがあり、授業や留学生との交流を通して実践的に語学力を磨けること、学部在学中の留学を通して専門性を身につけられる機会があることにも魅力を感じていました。

Q2 「学 術性と実務性を行き来できること」と「日々視点がアップデートされること」です。学問には未知のことを探究する楽しさがありますが、一方で現実世界との間に存在するギャップから独りよがりにもみえることもあります。共創学部では、社会課題をベースにして学術的な根拠と実務的な調整のどちらも求められるため、現場に根ざした解決アプローチが追究できます。また、個性豊かで各方面に尖った友人たちに囲まれたり、世界中から訪れる留学生たちからの刺激を受けることで自分自身と世界を俯瞰して見えるようになった実感があります。学生と先生方との距離が近く、無数の手法やフィールドの学習・経験の機会をもらえたこと、国内外の多方面でのつながりができたことも共創学部でよかったなと思わされる点です。

Q3 ア カデミックな立場から揺れ動く太平洋島嶼地域の記録者になれないかと考えています。これまで大学の奨学金によるマーシャル諸島滞在や外務省のフィジー派遣プログラム参加を経験しました。そのなかで互恵性や利他性ともみせせる規範を有する心地よいコミュニティを見出し、長く抱えていた「理不尽や不合理」に関する不安や疑問が解消されました。一方、私たちが忘れ去った太平洋戦争の痕跡が残りに新たに大国の対立に巻き込まれている様、ビーチが岩場になる・外来種によりヤシが壊滅しかけるなど環境変化の影響を一番に受けている様を目の当たりにし、自分の中であらゆる課題の最前線として太平洋島嶼地域の捉え直しがなされました。このため、太平洋島嶼地域の変容を記録し、「実社会における規範や将来の方向性を検討するための材料」として記録を発信し続けられる人材になりたいです。現在はマングローブに着目して、人々の関与および生態系の変化をモニタリングしようとしています。

Q1 社 社会課題を中心に学習するスタイルに魅力を感じたからです。社会課題について考える高校の授業を機に、様々な社会課題や解決に向けた世界・個人レベルの取り組みに興味を持ち始めました。進路を考える際に、特定の学問を選択することに違和感があり、一方で、関心のある社会問題に関連するあらゆる学問を選択できる共創学部のカリキュラムは私の価値観にとっても合っていました。特に、気候変動に関心があり、自然災害や環境ガバナンスについて学習できる環境が共創学部にはありました。留学が必須な点や英語に力を入れている点も魅力の1つでした。

Q2 「悩 み、挑戦できる環境」と「切磋琢磨できる仲間との出会い」の2点です。友人との会話や授業を通して視野が広がり、入学前と興味分野が変わることがあります。実際に私も入学後に宗教やビジネス、考古学などに興味を持ちました。本当にやりたいことについて何度も悩みますが、いつでも方向性を変えることができる環境は貴重で、興味の赴くままに挑戦できます。また、学年に関係なく切磋琢磨する環境は、何事も自身で意思決定をしなければならないハードな一面を共に乗り越える仲間と溢れています。様々な言語を習得する人や、他学部の授業を受講する人、エンジニアを目指す人など、まさに十人十色ですが、全員が挑戦をしています。留学生サポーター制度を通して出会った友人を訪ねてトルコに行ったことは一生の思い出です。

Q3 ビ ジネス(特にスタートアップ)を通じた人々の環境意識の向上の実現を目指しています。なかでも、人の意識や価値観を無意識に変えるサービスと脱炭素社会に関心があります。例えば、日本における脱炭素社会の在り方を議論する際には、これまでの取り組みを調べるだけでなく、経済発展の必要性や持続可能性、資本主義社会の問題点、エネルギー問題など考えるべき項目はたくさんあります。日本において実現性のある脱炭素社会の在り方を確立し、将来は、その社会の実現につながるサービスに関わりたいです。それと同時に、人の意識を根本から変えることが、教育や政治だけでなく、ビジネスでも可能であることを確かめたいと思っています。



共創学部3年 **岡部 沙友理**さん(2022年4月入学)
福岡雙葉高等学校卒(福岡)

Q1 なぜ共創学部を選びましたか?
Q3 今後の取り組みたい課題・夢は?

Q2 共創学部に入ってよかったことは?



Serasaroshiya Chiempitayanuvatさん(2022年10月入学)

Hwa Chong International School卒(シンガポール)

Q1 I ultimately chose to study in ISI because of how broad and well rounded the options for the areas of studies are. As someone who had (and still has) not only a strong interest both in biology and chemistry, but also in philosophy and psychology - ISI seemed highly appealing as all these options are offered for me to experiment and learn from. It was a little intimidating to apply to universities in Japan while having no prior formal Japanese language education. So it was reassuring that one of the main points of ISI is to bridge the gap between Japan and the rest of the world and that the students and instructors in the course are said to be openminded and foreigner friendly.

Q2 As far as I knew, it was very difficult to find a degree in Japan that allows time for new students to explore their choices without fully committing themselves to a specific degree. I think this is similar to the US college system where the first two years allow for students to study freely and only later on do they choose their specific major they want to pursue. My first year in ISI was colorful; loaded different courses from vastly different areas. Getting to study everything I was interested in and beyond, was a privilege I would not have had if I were placed into a different degree. This allowed me to recognize the specific area I would like to focus my degree project on and specialize in in the future. Apart from academics, the experiences I gathered through making friends from the course - both local and international - truly enriched my university life.

Q3 With my strong interest in biology and medical sciences, for my degree project, I hope to research protein-based approaches to treatments of diseases. For instance, the application and utilization of cytoskeletal proteins in vaccination and microtubule-targeted drugs. With this as the focus for my research, the overall theme of my degree project would be in the studies of microbiology, biochemistry and immunology. Though the degree project is currently at its planning stages, I hope to work in the guidance of my biology professor who has very much inspired me. I aspire to continue my studies after graduating from ISI to either become a doctor or a researcher one day.

Q1 I was in between a lot of things when I first chose my major for university. On one hand, I liked economics, business and finance but also I enjoy physics, maths, and computer science. This led me to a predicament, and usually a way to mitigate this kind of indecision, is to major on one and minor on one. Hence, I approached my university application in such manner, where I tried to choose one to focus on and one to study about. In my mind, I was not sure if this was the correct decision, as I liked both fields equally. When I was applying for the universities in Japan, I saw the ISI program in Kyushu University, and I felt like it was directly meant for people like me. I saw the four focus areas that was provided by ISI, and was immediately interested, as I see it as issue-based study, where you're studying around an issue that you are interested in. With this system, you can choose the classes and things that you want to study and combine the things you've learned to hopefully solve the issue. Overall, I think this kind of system suits me who likes most subjects and want to learn a bit of everything.

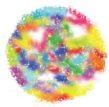
Q2 There are many good things that come when you're admitted to ISI. You are officially a student in one of the best universities in Japan and Asia, you get to choose what you want to study and research with almost no limit of what you can and can not do (for the research topic). Japan is a wonderful country which ranks highly every year on global safety indexes and the overall culture is so unique and beautiful. To touch on the financial side of things, I feel like the school has given us many opportunities to pursue certain scholarships, a few paid opportunities around campus, and also just general financial help which has been really helpful for us students. To summarize, after admitted into ISI, I became a university student in one of the most prestigious schools in Asia with a scholarship and I get to live in Japan. Overall really fun :)

Q3 Currently my degree project is based around sustainability, as my focus area is in earth and environment. My main focus is the development of Net-Zero Buildings and Houses. With this research I want to positively impact our development as human beings by lessening the impact we have on the environment and hopefully head towards a cleaner world. My research would require me to take some courses in geology, natural energy, geophysics, social cultures, and design . This peculiar combination of classes and subjects would be hard to replicate if I was not in the ISI program. My dream is to hopefully complete my research with tangible and applicable results and hopefully put it in play in the real world.



Abinael Sarungallo Lumempouwさん(2022年10月入学)

Morning Star Academy卒(インドネシア)



教員紹介

(2024年5月1日現在)

専任教員



教授・学部長
鏑木 政彦
KABURAGI Masahiko

【専門分野】
政治思想史



教授・副学部長
鬼丸 武士
ONIMARU Takeshi

【専門分野】
比較地域研究、
政治史



教授・副学部長
**ローレンス
ヨハン**
LAUWEREYNS Johan

【専門分野】
認知神経科学



教授
荒谷 邦雄
ARAYA Kunio

【専門分野】
昆虫学、
生物多様性科学



教授
**ドラモンド
ダグラス**
DRUMMOND Douglas

【専門分野】
Cytoskeletal
Proteins,
Molecular Biology



教授
郭 俊海
GUO Junhai

【専門分野】
応用言語学



教授
**ハザリカ
ヘマンタ**
HAZARIKA Hemanta

【専門分野】
地盤工学、地震防災、
環境地盤工学



教授
稲葉 美由紀
INABA Miyuki

【専門分野】
国際ソーシャルワーク、
社会開発、公共政策、
老年学



教授
伊良皆 啓治
IRAMINA Keiji

【専門分野】
脳情報科学、
脳機能イメージング、
生体医工学



教授
菅 浩伸
KAN Hironobu

【専門分野】
自然地理学



教授
木實 新一
KONOMI Shin'ichi

【専門分野】
情報学



教授
益尾 知佐子
MASUO Chisako T.

【専門分野】
現代中国の政治外交、
国際関係論



教授
三木 洋一郎
MIKI Yoichiro

【専門分野】
医学教育学



教授
溝口 孝司
MIZOGUCHI Koji

【専門分野】
考古学



教授
永島 広紀
NAGASHIMA Hiroki

【専門分野】
歴史学、東洋史



教授
中村 真子
NAKAMURA Mako

【専門分野】
筋細胞生物学、
発生生物学



教授
大神 智春
OHGA Chiharu

【専門分野】
日本語教育学



教授
大河内 豊
OOKOUCHI Yutaka

【専門分野】
初期宇宙論、
統一理論



教授
施 光恒
SE Teruhisa

【専門分野】
政治理論、政治哲学



教授
田尻 義了
TAJIRI Yoshinori

【専門分野】
考古学



教授
吉田 謙太郎
YOSHIDA Kentaro

【専門分野】
環境経済・政策学



准教授
有賀 智子
ARIGA Tomoko

【専門分野】
素粒子実験



准教授
ブレジナ ヤン
BREZINA Jan

【専門分野】
偏微分方程式



准教授
藤岡 悠一郎
FUJIOKA Yuichiro

【専門分野】
地理学



准教授
舟橋 京子
FUNAHASHI Kyoko

【専門分野】
人骨考古学



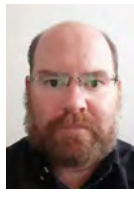
准教授
古川 不可知
FURUKAWA Fukachi

【専門分野】
文化人類学、
ヒマラヤ地域研究



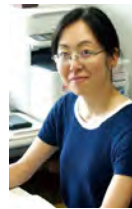
准教授
**ホール
アンドリュー**
HALL Andrew

【専門分野】
日本・東アジア近代史



准教授
**ハズウェル
クリストファー
ガレス**
HASWELL, Christopher Gareth

【専門分野】
Sociolinguistics
(English as a
Lingua Franca)



准教授
稲垣 紫緒
INAGAKI Shio

【専門分野】
物性物理学



准教授
金山 浩司
KANAYAMA Koji

【専門分野】
科学史



准教授
姜 益俊
KANG Ikjoon

【専門分野】
生態毒性学



准教授
木附 晃実
KITSUKI Akinori

【専門分野】
開発経済学、
応用ミクロ計量経済学、
政策評価



准教授
李 曉燕
LI Xiaoyan

【専門分野】
知識科学、
第二言語習得論



准教授
長谷 千代子
NAGATANI Chiyoko

【専門分野】
文化人類学



准教授
中野 伸彦
NAKANO Nobuhiko

【専門分野】
岩石学



准教授
大賀 哲
OGA Toru

【専門分野】
国際政治学



准教授
岡田 昌也
OKADA Masaya

【専門分野】
情報学、
行動情報処理、
マルチモーダル
センシング



准教授
坂口 英継
SAKAGUCHI
Hidetsugu

【専門分野】
複雑系科学、物理学



准教授
仙田 量子
SENDA Ryoko

【専門分野】
地球化学



准教授
瀬平 劉
アントン
SEVILLA-LIU Anton

【専門分野】
哲学、臨床教育学



准教授
スルチョードリ
ビシュワジット
SURCHOWDHURY
Vishwajit

【専門分野】
動物栄養生理学



准教授
徳久 悟
TOKUHISA Satoru

【専門分野】
サービスデザイン、
ヒューマン・コンピュータ
インタラクション、
イノベーション・マネジメント



准教授
内田 諭
UCHIDA Satoru

【専門分野】
言語学



准教授
脇 隼人
WAKI Hayato

【専門分野】
最適化理論



准教授
山形 幸彦
YAMAGATA Yukihiko

【専門分野】
プラズマ理工学



准教授
山尾 大
YAMAOKA Dai

【専門分野】
中東政治、国際関係、
比較政治



講師
栗田 健一
KURITA Kenichi

【専門分野】
応用経済学



講師
松尾 和典
MATSUO Kazunori

【専門分野】
昆虫学、農学



講師
ヴァイス
デーヴィッド
WEISS David

【専門分野】
日本・東アジアの
思想史



講師
山本 明日香
YAMAMOTO Asuka

【専門分野】
開発経済学、
インド経済論



助教
足立 達朗
ADACHI Tatsuro

【専門分野】
地質学、岩石学、
考古学

授業担当教員

教授
カアベイロ ホセ
CAAVEIRO Jose

【専門分野】
タンパク質工学

教授
百村 帝彦
HYAKUMURA Kimihiko

【専門分野】
自然資源管理

教授
伊藤 幸司
ITO Koji

【専門分野】
日本中世史

教授
楠見 淳子
KUSUMI Junko

【専門分野】
分子進化学

教授
桑原 義博
KUWAHARA Yoshihiro

【専門分野】
鉱物学

教授
松永 典子
MATSUNAGA Noriko

【専門分野】
多文化共生教育論

教授
波瀾 剛
NAMIGATA Tsuyoshi

【専門分野】
比較文学

教授
大野 正夫
OHNO Masao

【専門分野】
地球物理学

教授
大津 隆広
OTSU Takahiro

【専門分野】
英語学

教授
遠矢 浩一
TOYA Koichi

【専門分野】
臨床心理学

教授
内田 誠一
UCHIDA Seiichi

【専門分野】
パターン認識

教授
山下 潤
YAMASHITA Jun

【専門分野】
環境地理学

准教授
阿部 康久
ABE Yasuhisa

【専門分野】
人文地理学

准教授
オーガスティン マシュー
AUGUSTINE Matthew

【専門分野】
日本近現代史

准教授
何 昕霓
Ho, Hsin-Ni

【専門分野】
触覚情報学

准教授
金子 晃介
KANEKO Kosuke

【専門分野】
マルチメディア情報学

准教授
笠原 玉青
KASAHARA Tamao

【専門分野】
河川水文

准教授
木田 新一郎
KIDA Shinichiro

【専門分野】
海洋物理学

准教授
北澤 満
KITAZAWA Mitsuru

【専門分野】
経済史

准教授
小林 俊哉
KOBAYASHI Toshiya

【専門分野】
科学技術社会論

准教授
荻野 由紀子
OGINO Yukiko

【専門分野】
内分泌学

准教授
岡本 剛
OKAMOTO Tsuyoshi

【専門分野】
システム神経科学

准教授
清野 聡子
SEINO Satoquo

【専門分野】
生態工学

准教授
武田 友加
TAKEDA Yuka

【専門分野】
応用経済

准教授
渡部 哲史
WATANABE Satoshi

【専門分野】
水文学

講師
松枝 佳奈
MATSUEDA Kana

【専門分野】
比較文学・比較文化

講師
田北 雅裕
TAKITA Masahiro

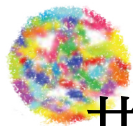
【専門分野】
まちづくり

助教
稲村 徳州
INAMURA Tokushu

【専門分野】
イノベーション手法

助教
馬 博軒
MA Boxuan

【専門分野】
情報知能工学



共創学部の入試について

九州大学は、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価する全学的な入試改革を推進しています。この方針に基づいて、共創学部では「知識を問う入試から、能力を見極める入試への転換」を掲げ、志願者の能力を複数の観点から見極めるために、本学部が掲げるアドミッション・ポリシーに準じて、次のような特色をもつ入学者選抜を実施します(アドミッション・ポリシーは共創学部ホームページをご覧ください)。<https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/pages/about/policy/>

※以下の内容は、2024年度(令和6年度)入試までの内容です。

2025年度(令和7年度)以降に実施される入試から共創学部の選抜方法が変わります。詳細は共創学部ホームページよりご確認ください。

1. 4種類の選抜試験

本学部のアドミッション・ポリシーに述べた「求める学生像」の4つの観点から、志願者の能力や態度等を見極めるために、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「国際型入試」の4種類の選抜試験を実施します。また、それぞれの入試類型の中でも複数の観点を組み合わせ、志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。

2. 文理共通問題

一学部一学科の学部として、独自入試では文理共通の試験問題を課します(留学生に対する試験を除く)。理系クラスで学んできた志願者も、文系クラスで学んできた志願者もどちらも解答可能な問題を用意し、いずれかが不利になることのないよう配慮します。

3. 志望理由書

これまでにない新しい学部であることに鑑み、すべての入試類型で「志望理由書」の提出を求め、学部への理解や適性などを確認します。

総合型選抜(募集人員:20人)

共創学部総合型選抜では、大学入学共通テストは課さず、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉9月中旬

〈選抜期日〉10月上旬～中旬(第1次選抜)、11月上旬(第2次選抜)

〈合格発表〉11月中旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して可否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となります。第2次選抜では、実際に大学で行われる講義(人文社会系と自然科学系の2つの講義)を受講した上で執筆するレポート、集団討論、小論文、面接の成績を総合的に評価して可否を判定します。

学校推薦型選抜(募集人員:10人)

高等学校等の長からの推薦をもとに、学校推薦型選抜を実施します。推薦できる人数は、1校につき1人とし大学入学共通テストを課し、第1次選抜及び第2次選抜を行います。

〈出願期間〉11月下旬

〈選抜期日〉12月上旬～中旬(第1次選抜)、1月下旬～2月上旬(第2次選抜)

〈合格発表〉2月中旬

入試のポイント

第1次選抜と第2次選抜のいずれの選抜でも「求める学生像」の4つの観点と大学で修学するための基礎学力という観点から評価します。第1次選抜では、推薦書、調査書、志望理由書、活動歴報告書を総合的に評価して可否を判定します。活動歴報告書では正課、正課外の諸活動が評価の対象となりますが、特に高校での正課における学習活動を高く評価します。第2次選抜は、プレゼンテーションと面接を実施します。第1次選抜の評点、第2次選抜の評点、大学入学共通テストの「国語」「数学」「英語」の合計点、これらを総合して可否を判定します。大学入学共通テスト「英語」については、指定の英語能力試験の成績を提出することにより、大学入学共通テスト「英語」の得点として利用することが可能です。ただし、この場合においても、大学入学共通テスト「英語」の受験は必須です。(詳細は募集要項を参照のこと)

一般選抜 (募集人員:65人)

大学入学共通テストと個別学力検査の合計点、志望理由書を総合的に評価して合否を判定します。本学部では幅広い分野の基礎知識と問題解決のための思考力をもった学生を求めています。そのような志願者を選抜するために、大学入学共通テストでは幅広い教科・科目を課し、高等学校で修得すべき基礎的な知識の学習の有無を評価します。また、個別学力検査では、「数学」「英語」「小論文」を課し、本学部で学ぶために求められる学力や思考力を評価します。

〈出願期間〉1月下旬～2月上旬

〈選抜期日〉2月25日、26日※前期日程のみ

〈合格発表〉3月8日

国際型入試 (募集人員:10人)

帰国生徒と海外留学生向けの入学試験です。帰国生徒選抜では、海外での学習状況を配慮し大学入学共通テストを免除しますが、個別学力検査で数学と英語を課し、本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から評価をします。また、面接、志望理由書を含む出願書類を「求める学生像」の観点から評価し、これらを総合して合否を判定します。

海外留学生向けには私費外国人留学生入試(4月、10月入学)を実施します。本学部で学ぶための基礎的な学力があるかどうかという点から日本留学試験等の成績を求めます。また、面接、志望理由書を含む出願書類をアドミッションポリシーの「求める学生像」の観点から評価します。

令和6(2024)年度入試結果

入試区分 (定員)	志願者数	合格者数	倍率
総合型選抜 (20)	109	20	5.45
学校推薦型 選抜 (10)	41	11	3.73
一般選抜 (65)	205	70	2.93
国際型 入試 (10)	帰国 (若干名)	0	0
	私費 (4月) (若干名)	15	4
	私費 (10月) (若干名)	24	14
合計 (105)	394	119	—

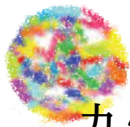
これまでの志願状況

中国	98	グアテマラ	1
アメリカ	41	ペルー	1
韓国	69	ベトナム	4
インドネシア	31	アルゼンチン	1
台湾	10	ネパール	1
マレーシア	6	ロシア	1
モンゴル	3	ブラジル	2
オーストラリア	3	ブルガリア	1
ドイツ	1	オランダ	1
シンガポール	5	パングラデシュ	1
タイ	8	カナダ	1
トルコ	1	ミャンマー	1
フィリピン	6	ニュージーランド	1
インド	5		

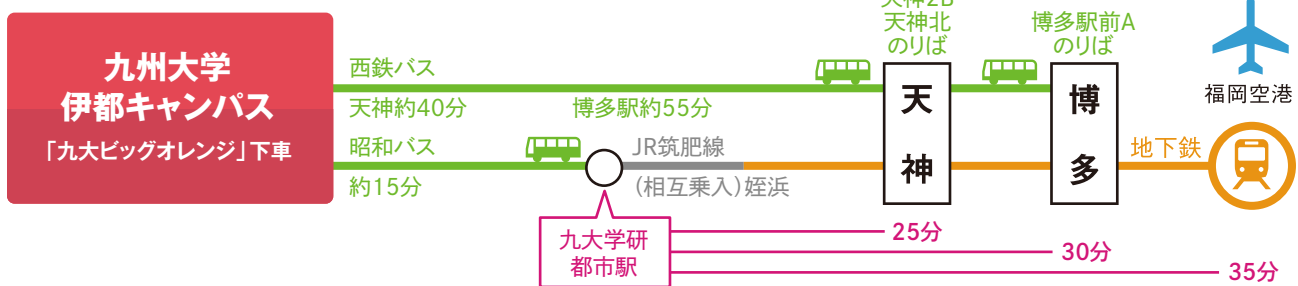


※詳しい入試情報は、入学者選抜概要や募集要項をご覧ください。





九州大学伊都キャンパス アクセス情報



- 福岡空港から**
 「福岡空港」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「福岡空港」駅(地下鉄空港線)→「博多」駅下車→「博多駅前A」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車
- 博多から**
 「博多」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「博多駅前A」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車
- 天神から**
 「天神」駅(地下鉄空港線:姪浜・唐津方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車
 「天神2B(ソラリアステージ前)」および「天神北(3)」停留所から直行バス(西鉄バス「急行」九大伊都キャンパス)行に乗車
- 佐賀(唐津)方面から**
 JR筑肥線(姪浜・福岡空港方面行に乗車)→「筑前前原」駅下車→糸島市コミュニティバス「九大線」に乗車
 JR筑肥線(姪浜・福岡空港方面行に乗車)→「九大学研都市」駅下車→昭和バス「九大伊都キャンパス」行に乗車

お問い合わせ

九州大学学務部基幹教育・共創学部課(伊都キャンパスセンター1号館2階)
 〒819-0395 福岡市西区元岡744 電話番号:092-802-5890 メールアドレス:gazkyoso@jimu.kyushu-u.ac.jp



詳しい情報は、共創学部ホームページをご覧ください。
<https://kyoso.kyushu-u.ac.jp/>



2024.7発行

表紙デザイン:武田奈々(共創学部卒業生1期生)